

令和7年度 花川小学校 学校評価

学校教育目標 「しなやかに たくましく 生きる子」

I 令和7年度の取組

【知】やる気いっぱい	【徳】やさしさいっぱい	【体】元気いっぱい
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、課題を解決する子 ○ しっかり勉強する子 ・子どもの学ぶ意欲を喚起し、主体的な学びを実現 ・読書の推奨 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ・ICT機器の利活用 ・地域の材、外部人材の積極的活用 ・魅力ある授業の工夫 ・基礎的、基本的な学習内容の確実な定着 ・キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 礼儀正しい子 ○ 自分も仲間も大切にする子 ・はままつマナーの活用（教師が率先垂範） ・凡事徹底（時を守り、場を清め、礼を正す） ・良好な人間関係の構築（レジリエンス） ・キャリアパスポートの活用 ・イイトコメガネの深化 ・縦割り活動や、視覚特別支援学校、幼稚園等との交流活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康で安全に生活する子 ○ ねばり強く挑戦する子 ・健康的な生活の指導（「早寝、早起き、朝ごはん」の推進） ・自分の命は自分で守ることを伝える（防災ノートの活用） ・外遊びの奨励（朝、15分休み、昼休み） ・体力アップを目指す活動の充実 （目標に向かってねばり強くチャレンジする態度の育成）

II 自己評価

○ 児童の評価

やる気いっぱい	授業での学習内容が分かる。	96%
	問題を解決するために友達と話し合うとき、自分の考えを進んで伝えている。	90%
	学習の中でタブレットを使って、調べたり、まとめたりしている。	94%
	学習で知りたいことがあるとき本を利用したり、時間があるときに本に親しんだりしている。	75%
	外部の人から学ぶ学習や施設等を見学する学習に進んで取り組んでいる。	90%
	家庭学習に進んで取り組んでいる。	84%
やさしさいっぱい	気持ちのよいあいさつをしている。	90%
	友達の名前に「さん」「くん」をつけて呼んだり、場に合わせて丁寧な言葉遣いで話したりしている。	87%
	温かい気持ちで、相手の話を最後まできちんと聞くことができる。	88%
	決まり・約束を守ることの大切さを考え、行動している。	96%
	友達のよいところを進んで見つけ、伝えている。	86%
	友達の心や体を傷つけないように優しい言葉を使ったり、行動したりしている。	90%
元気いっぱい	休み時間には運動場に出て、元気よく体を動かしている。	83%
	学校のある日は、早ね、早起きをしている。	75%
	毎朝、朝食を食べたり、苦手なものがあっても頑張って食事をしたりしている。	87%
	自分の目標や、できるようになりたいことに向かって、粘り強くチャレンジしている。	96%
	行事では、練習や本番に進んで取り組んでいる。	96%
	命の大切さを知り、地震や火事の時や、知らない人に声を掛けられたとき、どうしたらよいか分かっている。	96%

○ 保護者の評価

やる気いっぱい	お子さんは、国語や算数の学習内容を理解している。	87%
	お子さんは、分からないことがあったとき、自分で調べたり、先生やうちの人に聞いたりしている。	83%
	お子さんは、タブレットを使った授業や学習に興味をもっている。	97%
	お子さんは、学習で知りたいことがあるとき本を利用したり、時間があるときに本に親しんだりしている。	52%
	お子さんは、外部の人から学ぶ学習や施設等を見学する学習に進んで取り組んでいる。	67%
	お子さんは、家庭学習に進んで取り組んでいる。	72%
やさしさいっぱい	お子さんは、気持ちのよい挨拶をしている。	86%
	お子さんは、友達の名前に「さん」「くん」をつけて呼んだり、場に応じて丁寧な言葉遣いで話したりしている。	78%
	お子さんは、温かい気持ちで人の話を最後まで聞いている。	85%
	お子さんは、きまりや約束を守って生活している。	84%
	お子さんは、友達のよいところを進んで見つけ、伝えている。	85%
	お子さんは、友達の心や体を傷つけないように優しい言葉を使ったり、行動したりしている。	84%
元気いっぱい	お子さんは、進んで体を動かしている。	78%
	お子さんは、学校がある日に早寝・早起きをしている。	84%
	お子さんは、毎朝、朝食を食べたり、苦手なものがあっても頑張って食事をしたりしている。	90%
	お子さんは、自分の目標や、できるようになりたいことに向かって、粘り強くチャレンジしている。	78%
	お子さんは、行事において、生き生きと活動している。	98%
	お子さんは、命の大切さを知り、地震や火事の時や、知らない人に声を掛けられたとき、どうしたらよいか分かっている。	94%

○ 分析・考察

- ・児童の発達段階を考慮し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実した授業作りを進めた。多くの児童が、「授業での学習内容が分かる」と感じている。
- ・地域の人材や外部人材の活用を進めることで、授業内容の充実化・安全化が図られた。
- ・友達のよいところを見つけて伝えたり、友達の心や体を傷つけないように優しい言葉を使ったりすることができた。自分も仲間も大切にする子の育成につながった。
- ・花川小学校いじめ防止基本方針のもと、いじめに組織的に対応することができた。
- ・ICTの活用が進んでいる。本に親しむ機会を意図的に作ることで大切である。
- ・児童数の増加により複式学級が解消され、今年度から全学年が単学級となった。児童が主体的に活動へ取り組むことができるよう、実態に合った教育計画の検討が必要である。

III 学校運営協議会による学校関係者評価

- ・年々児童数が増えているが、小規模校ならではの温かい雰囲気を引き続き大切にしてもらいたい。
- ・授業での学習内容が分かると答えている児童が多い。児童が集中して学習することのできる授業を今後も続けてほしい。
- ・上級生が下級生のことをよく見ている。学年に関係なく児童の仲が良く、楽しく学校生活を送れている。
- ・ICTの活用が進んでも、読書をする時間を大切にしていきたい。
- ・いじめに組織的に対応し、児童が安心して生活できる学校を引き続き作ってほしい。
- ・学校の情報を地域へ発信し、地域全体で児童を育てていく雰囲気作りが大切であると思う。
- ・他の学校に比べ、人数が少ないため、たくさんの経験ができていていると思う。皆で協力し合い日々の行事に取り組むことで、児童は成長している。

IV 今後の改善方策

- ◇ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善へ引き続き取り組む。保護者と職員間、職員間の情報共有を進め、授業作りに生かしていく。
- ◇ 花川タイムの読書の時間を増やし、本に親しむことができるようにする。多読賞や読破賞を設け、多くの本を読んだ児童を称揚する。
- ◇ 恵まれた地域の人材や外部人材、学習支援ボランティアを様々な教科や領域で積極的に活用する。児童一人一人に寄り添った支援や花川小学校ならではの貴重な体験を増やしていく。
- ◇ 花川小学校いじめ防止基本方針のもと、職員が同一歩調で対応し、児童が安心して生活することができる学校作りを進める。人間関係作りやレジリエンスを高める活動へ計画的に取り組む。
- ◇ 多様化する一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな支援を実現するため、発達支援教育の理念に基づく児童理解・支援、外国に由来のある児童への配慮・支援を更に進める。